

社会福祉学科 社会福祉専攻 2年 前期 専門科目

1. 社会福祉の原理と政策 I
2. 社会福祉調査の基礎
3. ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ
4. 地域福祉と包括的支援体制 I
5. 社会保障 I
6. 保健医療と福祉
7. 権利擁護を支える法制度
8. ソーシャルワーク演習Ⅲ
9. ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
10. ソーシャルワーク実習Ⅱ
11. ソーシャルワーク研究 I
12. 臨床美術の実践 I
13. 表現アート演習Ⅱ
14. カウンセリング基礎演習
15. 心理アセスメント基礎実習
16. 発達心理学
17. 人格心理学
18. 社会心理学
19. 心理学研究 I

社会福祉学科						
科目名: 社会福祉の原理と政策 I				担当教員 氏名: 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士受験資格(必修) 福祉心理士
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 ③社会問題と社会構造の関連について理解する。 ④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。					社会福祉の原理、歴史、思想・哲学、社会問題、社会構造、福祉政策、ニーズ、資源	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)			
A 知識・理解力			社会福祉の理念、社会政策について理解することができる			
C 論理的思考力			社会問題と社会構造の関連を理解し解決策を考える。			
D 問題解決力			理論を活用して実践に結び付ける力を身につける。			
F チームワーク・リーダーシップ			先人による福祉実践からリーダーシップや福祉観を考察する			
G 倫理観			政策決定(プロセス含)における倫理観の必要性に気づく			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: その他とは授業への姿勢、態度のことである。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①社会福祉の原理 その意味と展開				【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②社会福祉の歴史1(歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分)				【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③社会福祉の歴史2(日本の社会福祉の歴史的展開)				【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④社会福祉の歴史3(欧米の社会福祉の歴史的展開)				【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤社会福祉の思想・哲学、理論1(哲学、社会正義、平和主義等)				【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥社会福祉の思想・哲学、理論2(戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、各論等)				【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦社会福祉の思想・哲学、理論3(論点、効率性、普遍主義、エンパワメント等)				【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧社会福祉の思想・哲学、理論4(社会福祉の対象とニーズ)				【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨社会問題(貧困、孤立、失業、要援護性、偏見と差別、社会的排除、ヴァルナリティ、ニューリスク、依存症、自殺)				【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩社会問題の構造的背景(低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少、格差、貧困等)				【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪福祉政策の基本的な視点1(福祉政策の概念・理念)				【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫福祉政策の基本的な視点2(社会保障、社会政策、福祉レジームと福祉政策等)				【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬福祉政策におけるニーズと資源1(ニーズの種類と内容)				【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭福祉政策におけるニーズと資源2(社会資源開発)				【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ				【事前】今までの授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座4「社会福祉の原理と政策」中央法規 ISBN978-4-8058-8234-4				その他参考文献など:「厚生労働白書」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点があるので、配布した資料は毎回持参してください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年	
科目名: 社会福祉調査の基礎				担当教員氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			社会福祉士としての実務経験をもとに調査の実際を事例を交えながら授業する。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
①社会福祉調査の意義と目的について理解する。 ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 ③社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ④量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑤質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑥ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。				社会福祉調査、倫理と個人情報、量的調査、質的調査		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力	社会福祉調査の基本的な知識と調査における倫理や個人情報保護について理解することができる。					
B 専門的技術	社会福祉調査の基本的な技術を習得する。					
C 論理的思考力	社会福祉調査に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。					
D 問題解決力	社会福祉調査法を用いて、利用者や地域の課題を解決する方法を理解することができる。					
G 倫理観	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: 20 %	実技: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、社会調査を実際に行い、授業において調査結果の発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時で実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 別に定めた日時で実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		
①オリエンテーション～社会福祉調査の意義と目的～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】①の復習		
②社会福祉調査の対象と統計法の概要				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】②の復習		
③社会福祉調査における倫理と個人情報保護				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】③の復習		
④社会福祉調査のデザイン				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】④の復習		
⑤量的調査の方法①～種類と方法～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑤の復習		
⑥量的調査の方法②～質問紙の作成～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑥の復習		
⑦量的調査の方法③～集計と分析①～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑦の復習		
⑧量的調査の方法④～集計と分析②・中間まとめ～				【予習】①～⑦の復習 【復習】⑧の復習		
⑨質的調査の方法①～質的調査の概要～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑨の復習		
⑩質的調査の方法②～観察法～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑩の復習		
⑪質的調査の方法②～面接法～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑪の復習		
⑫質的調査の方法③～記録の方法と留意点～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑫の復習		
⑬質的調査の方法④～データの整理と分析～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑬の復習		
⑭ソーシャルワークにおける評価①～評価の意義と対象～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑭の復習		
⑮ソーシャルワークにおける評価②～評価方法・まとめ～				【予習】⑨～⑭の復習 【復習】⑮の復習		
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座5「社会福祉調査の基礎」中央法規 ISBN978-4-8058-8235-1				その他参考文献など: 「社会調査」のウソリサーチ・リテラシーのすすめ 谷岡一郎 著 文藝春秋		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、2年生にとっては介護福祉研究等に必要な知識と技術であるため、できるだけ多くの学生の受講を期待します。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			担当教員 氏名: 中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 子ども、高齢者、障害者等に対する相談支援を行ってきた経験をもとに、対象者とその取り巻く環境に対する 支援のあり方を検討する演習を行う。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソ ーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形 成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。③社会資源の活用 の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。					ソーシャルアクション カンファレンス ネットワーキング 社会資源
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1, 2, 5, 6, 8, 9, 10	
A 知識・理解力	ソーシャルワーク技術について知識を深めることができる				
B 専門的技術	実践現場で活かせる援助技術を身につける				
C 論理的思考力	対象を多角的にとらえ、リアルニーズの把握と社会資源に結びつける				
D 問題解決力	事例検討をとおしてソーシャルワークの実践力を身につける				
G 倫理観	相談援助職の専門的役割や使命とともに倫理綱領を理解し実践活動ができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %
				実技試験:	%
				その他:	10 %
特記事項:その他は、授業出席、態度を評価する。(事例検討後の感想や気づき等のレポート提出も含む。)					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回授業後に中間レポート形式)、第15回後に期末レポートを提出。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 講義内での講評 レポートはA、B、C、D、Eで評価を行う。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な 時間(分)
①ソーシャルワークにおける援助関係の形成 (援助関係の意義と概念 援助関係の形成 方法)				【事前】第1章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
②ソーシャルワークにおける援助関係の形成(面接技術、アウトリーチ)				【事前】第2章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
③ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発Ⅰ(意義、目的、方法等)				【事前】第4章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
④ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発Ⅱ(ソーシャルアクション)				【事前】第4章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑤事例分析				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑥ネットワークの形成Ⅰ(意義、目的、方法等)				【事前】第3章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑦ネットワークの形成Ⅱ(家族、住民のネットワーキングとコーディネート)				【事前】第3章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑧事例分析				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑨ソーシャルワークに関連する方法Ⅰ(ネゴシエーション、ファシリテーション)				【事前】第7章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑩ソーシャルワークに関連する方法Ⅱ(プレゼンテーション)				【事前】第7章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑪カンファレンス(意義、目的、運営と展開)				【事前】第5章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑫事例分析(グループワーク)				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑬事例分析(グループワーク)				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑭事例分析(グループワーク)				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
⑮まとめ				【事前】第1～7章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分
使用テキスト: 最新 社会福祉養成講座6ソーシャルワークの理論と方 法(社会専門)、中央法規、ISBN:978-4-8058-8249-8				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

社会福祉学科						
科目名: 地域福祉と包括支援体制 I				担当教員 氏名: 山本 純子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
地域福祉は、現在日本の社会福祉において重要視されている分野である。地域福祉の歴史や概念。新しい地域福祉の展開、地域ケアと自立支援のための方法論や近年の地域福祉の動向と課題を学ぶ。					地域福祉、ボランティア、エンパワメント、アドボカシー、ソーシャルインクルージョン	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力	地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。					
B 専門的技術	地域福祉を実践できる能力を習得する。					
C 論理的思考力	地域問題を複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。					
D 問題解決力	地域問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。					
G 倫理観	ソーシャルワークの価値と倫理を基本とし、実践活動を展開する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 80 %	発表: 10 %	実技試験:	%	その他: 10 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークとプレゼンテーションを行う。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習		ディスカッション、ディベート		グループワーク、プレゼンテーション		
実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末はレポート別に定めた日時に実施。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間レポートと期末レポートはABCD評価で採点し返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①地域福祉の考え方と背景 I			【予習】Iの地域福祉とはの1~3を読む 【復習】Iの地域福祉とはの1~3をまとめる。	【予習】120分 【復習】120分		
②地域福祉の考え方と背景 II			【予習】Iの地域福祉とはの4~5を読む 【復習】Iの地域福祉とはの4~5をまとめる。	【予習】120分 【復習】120分		
③地域福祉の考え方と背景 III			【予習】Iの地域福祉とはの6~7を読む 【復習】Iの地域福祉とはの6~7をまとめる。	【予習】120分 【復習】120分		
④地域福祉の理念と理論			【予習】IIの地域福祉の理念と概念1~2を読む 【復習】IIの地域福祉の理念と概念の1~2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑤地域福祉の構成要素			【予習】IIの地域福祉の理念と概念3を読む 【復習】IIの地域福祉の理念と概念の3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑥社会的包摂の概念と構成要素			【予習】IIの地域福祉の理念と概念4を読む 【復習】IIの地域福祉の理念と概念の4をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑦ボランティアの概念と類型			【予習】IIの地域福祉の理念と概念5を読む 【復習】IIの地域福祉の理念と概念の5をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑧協働・パートナーシップによるネットワークの形成			【予習】IIの地域福祉の理念と概念の6を読む 【復習】IIの地域福祉の理念と概念の6をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑨エンパワメントとアドボカシーの概念と構成要素			【予習】IIの地域福祉の理念と概念7~8を読む 【復習】IIの地域福祉の理念と概念の7~8をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑩日本の地域福祉の展開			【予習】IIIの地域福祉の発展の4~6を読む 【復習】IIIの地域福祉の発展の4~6をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑪海外の地域福祉の展開			【予習】IIIの地域福祉の発展の1~3を読む 【復習】IIIの地域福祉の発展の1~3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑫地域福祉の政策展開 I			【予習】IVの地域福祉の政策展開の1~3を読む 【復習】IVの地域福祉の政策展開の1~3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑬地域福祉の政策展開 II			【予習】IVの地域福祉の政策展開4~6を読む 【復習】IVの地域福祉の政策展開の4~6をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑭地域福祉の政策展開 III			【予習】IVの地域福祉の政策展開7~8を読む 【復習】IVの地域福祉の政策展開の7~8をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑮まとめ			【予習】IからIVを読み全体を復習する。	【予習】240分		
使用テキスト: 新版よくわかる地域福祉(ミネルヴァ書房) ISBN978-4-623-08592-7				その他参考文献など: 地域福祉論 岡村重夫 著 (光生館)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域福祉の基礎を学んでいきます。地域福祉の理解を促進するため予習と復習を行ってください。						

社会福祉学科				社会福祉専攻		
科目名: 社会保障 I				担当教員 氏名: 中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士受験資格(必須)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 現場の具体的なケースを適宜紹介している。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の概念や対象及びその理念について、展開過程も含めて理解する。 ・現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 ・社会保障制度の財政について理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 					社会保障の理念・歴史・概念、所得保障制度、医療保障制度、介護保険制度、労働保険制度	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標		2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力	社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。					
B 専門的技術	社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。					
C 論理的思考力	社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。					
D 問題解決力	社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。					
G 倫理観	常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 70 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他20%は授業の受講態度による。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7コマ目に中間レポート、15コマ目に期末レポートを提出。その他は授業態度等を含み評価する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜コメントと採点を行い返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①現代社会と社会保障(人口動態の変化)			【予習】第1章第1節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
①現代社会と社会保障(経済環境の変化)			【予習】第1章第2節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
①現代社会と社会保障(労働環境の変化)			【予習】第1章第3節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
④社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の概念と範囲)			【予習】第2章第1節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑤社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の役割と意義)			【予習】第2章第2節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑥社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の理念・対象)			【予習】第2章第3・4節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑦社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の展開)			【予習】第2章第5節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑧社会保障の財政			【予習】第3章第1節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑨社会保障の財政(社会保障給付費・内訳・動向)			【予習】第3章第2節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑩社会保障の財政(国民負担率)			【予習】第3章第3節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑪社会保障の財政(社会保障と経済)			【予習】第3章第4節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑫社会保険・社会扶助・民間保険の関係(保険と扶助の考え方)			【予習】第4章第1節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑬社会保険・社会扶助・民間保険の関係(社会保険と社会扶助の考え方)			【予習】第4章第2節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑭社会保険・社会扶助・民間保険の関係(社会保険と民間保険の現状)			【予習】第4章第3節を読む 【復習】ふりかえりレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
⑮まとめ			【予習】第1章～第4章を読む 【復習】まとめレポートの提出	【予習】120分	【復習】120分	
使用テキスト: 最新社会福祉養成精神保健福祉養成講座7社会保障、中央法規、ISBN: 978-4-8058-8237-5			その他参考文献など: 厚生労働白書、福祉六法			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 教科書等で予習と復習をしましょう。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 保健医療と福祉				担当教員 氏名: 中村 尚紀					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 保健医療領域の特性を理解するため、医療現場の実情や多職種の専門性について実践例踏まえながら学びを深める。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ソーシャルワークで活用する医療保険制度や保健医療サービスについて知る。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際について学び、多職種との協働のあり方を考える。					保健 保険 医療 病院 公衆衛生 退院支援 ヘルスプロモーション				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 9				
A 知識・理解力		保健医療サービスの歴史的背景や知識を理解する							
B 専門的技術		保健医療サービスを多角的な視点から捉えられる知識を身につける							
C 論理的思考力		公衆衛生等の知識を用いて保健医療サービスについて説明出来る力を養う							
D 問題解決力		社会問題と保健医療サービスの知識を照らし合わせながら問題解決の力を身につける							
G 倫理観		保健医療サービスの概念を理解し、倫理観を身につける							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	10 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末はレポート別に定めた日時に実施。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間レポートと期末レポートはABCD評価で採点し返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①保健医療の課題をもつ人の理解Ⅰ(疾病の理解)				[予習]第1章第1節を読む。 [復習]第1章第1節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
②保健医療の課題をもつ人の理解Ⅱ(家族の理解、患者の権利)				[予習]第1章第2～3節を読む。 [復習]第1章第2～3節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
③医療倫理				[予習]第2章第1節を読む。 [復習]第2章第1節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
④患者の意思決定をめぐる課題(ACP等)				[予習]第2章第2節を読む。 [復習]第2章第2節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑤保健医療の動向Ⅰ(疾病構造の変化)				[予習]第3章第1節を読む。 [復習]第3章第1節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑥保健医療の動向Ⅱ(入院医療、在宅医療、ターミナルケア等)				[予習]第3章第1～3節を読む。 [復習]第3章第1～3節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑦保健医療領域の政策・制度Ⅰ(保健医療制度の体系・運営等)				[予習]第4章第1節を読む。 [復習]第4章第1節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑧保健医療領域の政策・制度Ⅱ(医療法等)				[予習]第4章第2節を読む。 [復習]第4章第2節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑨保健医療領域の政策・制度Ⅲ(医療費の保障、その他制度等)				[予習]第4章第3～4節を読む。 [復習]第4章第3～4節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑩保健医療領域の専門職の役割と連携Ⅰ(各専門職の役割、医療チーム等)				[予習]第5章第1節を読む。 [復習]第5章第1節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑪保健医療領域の専門職の役割と連携Ⅱ(多職種連携等)				[予習]第5章第2節を読む。 [復習]第5章第2節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑫保健医療領域の専門職の役割と連携Ⅱ(所属部署の体制等)				[予習]第5章第3節を読む。 [復習]第5章第3節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑬保健医療領域の支援の実際Ⅰ(医療ソーシャルワーカーの業務指針等)				[予習]第6章第1節を読む。 [復習]第6章第1節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑭保健医療の支援の実際Ⅱ(各領域の医療ソーシャルワーカーの役割)				[予習]第6章第2節を読む。 [復習]第6章第2節をレポートでまとめる。	[予習]120分 [復習]120分				
⑮まとめ				[予習]第1～6章節を読む。 [復習]第1～6章をレポートでまとめる。	[予習]240分				
使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉、中央法規、ISBN978-4-8058-8248-1				その他参考文献など: よくわかる医療福祉-保健医療ソーシャルワーク-(ミネルヴァ書房)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保健医療の基礎や多職種連携の方法を学んでいきます。保健医療と福祉の理解を促進するため予習と復習を行ってください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 権利擁護を支える法制度			担当教員 氏名: 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 社会福祉士・権利擁護センターばあとなあ富山の会員としての経験を活かし、被後見人等の権利擁護の在り方や関係機関・多職種チームによる支援、司法との連携について具体的、実務的に学習をします。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<ul style="list-style-type: none"> 相談援助活動と関連する法を理解する。 相談援助活動において必要となる成年後見制度について理解する。 成年後見活動の実際について理解する。 					権利擁護 成年後見制度 日常生活自立支援事業
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8. 9.	
A 知識・理解力	法律の知識や権利擁護の制度を総合的に理解することができる。				
B 専門的技術	権利擁護活動を具体的に理解することができる。				
D 問題解決力	事例を通して問題を解決する力を身につけることができる。				
G 倫理観	法制度を学ぶことで倫理観を醸成する。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 課題の論点整理と自己の見方、考え方を評価する。その他は出席態度を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストは別に定めた日時で実施する。8回目と最後の講義時にレポート提出。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題に対する論点の確認を行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①相談援助活動と法 DVD視聴			【予習】教科書第1章第1節を読む 【復習】①の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②日本国憲法 行政法			【予習】教科書第1章第2節、第3節を読む 【復習】②の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③民法			【予習】教科書第1章第4節を読む 【復習】③の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④成年後見制度			【予習】教科書第2章第1節～第3節を読む 【復習】④の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤成年後見制度			【予習】教科書第2章第4節～第7節を読む 【復習】⑤の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥日常生活自立支援事業 成年後見制度利用支援事業			【予習】教科書第3章～第4章を読む 【復習】⑥の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦権利擁護にかかわる組織・団体			【予習】教科書第5章を読む 【復習】⑦の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧権利擁護にかかわる専門職の役割			【予習】教科書第6章を読む 【復習】⑧の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨成年後見活動の実際 その1			【予習】教科書第7章第1節、第2節を読む 【復習】⑨の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩成年後見活動の実際 その2			【予習】教科書第7章第3節、第4節を読む 【復習】⑩の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪権利擁護活動の実際 その1			【予習】教科書第8章第1節～第3節を読む 【復習】⑪の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫権利擁護活動の実際 その2			【予習】教科書第8章第4節～第6節を読む 【復習】⑫の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬障害者ケアマネジメントにおける権利擁護 ケーススタディ			【予習】事前に配布する資料を読む 【復習】⑬の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭高齢者ケアマネジメントにおける権利擁護 ケーススタディ			【予習】事前に配布する資料を読む 【復習】⑭の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮振り返り ～社会福祉士会の取り組み～			【予習】テキスト全体の復習 【復習】⑮の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト:最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座9 「権利擁護を支える法制度」 ISBN978-4-8058-8239-9 (中央法規) ISBN978-4-8058-3936-2			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストを中心に進めていきますが、講義後半では事例を通じて成年後見活動の実際について学び、権利擁護の理解を深めていきます。					

社会福祉学科			社会福祉専攻		
科目名: ソーシャルワーク演習Ⅲ				担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みや、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程を実践的に理解する。					地域課題、地域アセスメント、ニーズ把握、地域福祉の計画、組織化、社会資源、マイクロ・メゾ・マクロ
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動 目標		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		ソーシャルワークに必要な知識と技術を、理論化し体系立てることができる。			
C 論理的思考力		利用者の抱える問題を、複眼的論理的に分析できる。			
D 問題解決力		適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。			
G 倫理観		ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。			
H コミュニケーション力		ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。					
アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 (ディスカッション) ディベート (グループワーク) プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション【松尾】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
②地域の特性の理解【松尾】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
③地域アセスメント【松尾】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
④地域のニーズの把握【松尾】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑤地域福祉の計画、プレゼンテーション【松尾】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑥社会資源の活用・調整・開発【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑦サービスの評価【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑧アウトリーチ【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑨チームアプローチ【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑩ネットワーキング【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑪コーディネート【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑫ネゴシエーション【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑬ファシリテーション【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑭ソーシャルアクション【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
⑮授業のまとめと振り返り【中村】			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分
使用テキスト: 社会保障制度活用ガイド 福祉小六法 978-4-8058-3925-6 現代社会福祉用語の基礎知識 978-4-7620-2174-9			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 相談援助実習に向けて、各領域のソーシャルワークの特徴を踏まえた授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。					ソーシャルワーク 知識と技術 スーパービジョン
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。				
B 専門的技術	実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。				
E 自己管理能力	実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。				
G 倫理観	実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。				
H コミュニケーション力	実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習終了後に実習報告書を提出し、実習の報告会を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けてレポートを返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション 実習計画書作成と事前訪問の方法など			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
②実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅰ (実習生、指導者、教員の三者協議を踏まえた計画とする)			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
③実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅱ			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
④実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅲ			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑤事例検討(グループ学習)Ⅰ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑥事例検討(グループ学習)Ⅱ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑦実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅰ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑧実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅱ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑨実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)			【事前】第1章第5節を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑩「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解			【事前】第2章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑪現場実習Ⅱ直前オリエンテーション(諸注意など)			【事前】第4章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑫報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅰ スーパービジョン			【事前】第5章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑬報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅱ			【事前】第5章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑭報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅲ			【事前】第5章を読む 【事後】学習内容をまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑮相談援助実習報告会とまとめ(自己評価を含む)			【事前・事後】授業で学んだことを復習し、まとめる	【復習】60分	
使用テキスト: 最新社会福祉養成講座 8ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習[社会専門]、中央法規、ISBN: 978-4-8058-8251-1			その他参考文献など: 福祉小六法、中央法規、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 原則として全授業に出席すること。実習終了後の実習報告レポートを締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されないで、十分な覚悟の上履修してほしい。尚、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱの単位を取得していないものは、履修できない。					

社会福祉学科			社会福祉専攻		
科目名: ソーシャルワーク実習Ⅱ			担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
4	2年次 前期	専門科目	実習	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実習機関の機能に沿って、各領域の社会福祉の役割の理解を深める					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
社会福祉の実践現場で、相談援助活動に係る知識と技術の基本を学ぶことを目的とする。ソーシャルワーク実習指導で行われる実習の事前・事後の学習と合わせて、社会福祉への理解を確かなものとしてほしい。					現場実習、実習計画書・記録・報告書等の書き方、報告会
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動 目標		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
B 専門的技術	ソーシャルワークの専門技術を実習現場で活かすことができる。				
E 自己管理能力	事前学習、実習中の実習記録(日誌)の作成と提出、報告書の作成提出を適切に行う。				
F チームワーク・リーダーシップ	実習現場の職員との連携等を行うことができる。				
G 倫理観	ソーシャルワークの価値と倫理を元にした援助を実施できる。				
H コミュニケーション力	実習現場において、利用者やその家族、職員等とのコミュニケーションを実践できる。				
成績評価の方法・基準: 実習配属先での評価や実習記録等から総合的に判断する。					
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7月～8月上旬。180時間以上・24日以上 ※配属先の事情により時期が異なる場合がある。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習評価票(コピー)の返却とスーパービジョンを行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
・配属先の施設・機関のプログラムにそって、180時間以上・24日以上の実習を行う。			分野別の指導内容によって異なる	【予習】60分 【復習】60分	
・この間担当教員による巡回指導が行われる。			実習場所の指示に従って学習を行う	【予習】60分 【復習】60分	
本実習は社会福祉士及び介護福祉士法により規定された指定施設(実習機関)において、社会福祉士受験資格取得に必要な240時間以上のうち180時間以上の実習を行うことを目的としている。特に配属地域及び実習施設・事業所等において、以下の項目にて実習指導者による指導を受けるものとする。					
①利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成					
②利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成					
③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価					
④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解					
⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ					
⑥地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解					
⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)					
⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解					
⑨ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解					
使用テキスト: ソーシャルワーク実習指導要綱			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は社会福祉の利用者の生活の場で行われる。このことを十分認識した上で臨んでほしい。実習は通勤または宿泊の形式で行い、配属先は学生の希望分野等を参考に教員が決定する(原則として)。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワーク研究 I			担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択必修	
実務経験を用いてどのよう社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネージャー等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かしたうな授業を行っているか: 授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
・専門職が研究を行う意義の学びから研究の問い、研究倫理、研究デザインの方法、研究論文の書き方等の研究の基礎の知識や技術を身につける					リサーチクエスチョン、研究倫理、先行文献、研究計画、質的研究、量的研究
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		
			1. 2. 5. 6. 7. 9. 10		
A	知識・理解力	福祉研究や文献等に触れることで総合的な知識力を高めることができる			
B	専門的技術	研究の学びを通してエビデンスを持ったの知識・技術を身につけることができる			
C	論理的思考力	研究の問いを熟考することで多角的な視点かつ思考力を身につけることができる			
D	問題解決力	研究を通して問題解決に至る力を身につけることができる			
G	倫理観	研究を通して生命観や倫理観、専門職の倫理綱領を深く理解することができる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %
				実技試験:	%
				その他:	50 %
特記事項: その他とは、研究の内容、論文、活動の取り組み姿勢や態度のことである。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習</u> 、 <u>フィールドワーク</u>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間・期末に提示された課題に沿って発表を行い評価する					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
研究の基礎 I -研究の意義- 【中村】			【予習】第1章研究することの大切さの1を読む 【復習】第1章研究することの大切さの1をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究の基礎 II -研究の問いの立て方- 【中村】			【予習】第1章研究することの大切さの2、3を読む 【復習】第1章研究することの大切さの2、3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
気づきを研究に発展させるポイント 【中村】			【予習】第2章研究活動にどのようなものがあるのかを読む 【復習】第2章研究活動にどのようなものがあるのかをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究の環境づくり-個人研究、共同研究、研究の資源について- 【中村】			【予習】第3章研究ができる環境をつくらうを読む 【復習】第3章研究ができる環境をつくらうをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究デザイン I -リサーチクエスチョンの立てかた- 【中村】			【予習】第4章研究をデザインしようの1を読む 【復習】第4章研究をデザインしようの1をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究デザイン II -先行研究の探し方と整理の仕方- 【中村】			【予習】第4章研究をデザインしようの2を読む 【復習】第4章研究をデザインしようの2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
中間発表 【中村・松尾】			【予習】第1章～第4章の2までを読む 【復習】第1章から第4章の2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究計画の立て方-研究計画書の書き方等- 【松尾】			【予習】第4章研究をデザインしようの3を読む 【復習】第4章研究をデザインしようの3をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究倫理とは何か-研究倫理の目的、倫理審査委員会、研究倫理のシレンマ- 【松尾】			【予習】第5章研究の倫理・ルールを知ろうを読む 【復習】第5章研究の倫理・ルールを知ろうをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
データの収集方法 I -質的研究の特性- 【松尾】			【予習】第6章データを集めようの1を読む 【復習】第6章データを集めようの1をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
データの収集方法 II -質的研究の種類- 【松尾】			【予習】第7章データを分析・考察しよう1、2を読む 【復習】第7章データを分析・考察しよう1、2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
データの収集方法 III -量的研究の特性- 【松尾】			【予習】第6章データを集めようの2を読む 【復習】第6章データを集めようの2をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
データの収集方法 IV -量的研究の種類- 【松尾】			【予習】第7章データを分析・考察しよう3、4を読む 【復習】第7章データを分析・考察しよう3、4をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
研究発表の基礎-プレゼンテーションの知識と技術について- 【中村】			【予習】第8章学会発表をしてみようを読む 【復習】第8章学会発表をしてみようをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
期末発表 【中村・松尾】			【予習】第1章から第8章を読む 【復習】第1章から第8章をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック-実践と研究を結びつけるプロセスと方法- (中央法規) ISBN978-4-8058-5861-5			その他参考文献など: 『論文の書き方マニュアル-ステップ式リサーチ戦略のすすめ』新版(有斐閣アルマ) 花井等(著)若松篤(著)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 目的意識をしっかりとってすすめてください。ソーシャルワーク研究 II にもつながってきますので、しっかりと予習と復習を行いましょう。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 臨床美術の実践 I			担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	臨床美術士4級
実務経験を用いてどのよ、臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材の理 うな授業を行っているか、解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。						・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2, 3, . 5, 6, 7, 8	
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。			
B 専門的技術			状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。			
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %
その他: 10 %						
特記事項:特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習</u> <u>フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:発表・実技は毎時間毎に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:課題提出時に振り返りのコメントを伝える。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①【岡野】授業ガイダンス				4月11日		
②【北澤】臨床美術基幹Ⅱ「臨床美術研究成果」				4月18日	【復習】授業内容のテキストを熟読	30分
③【北澤】臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」				4月18日	【復習】制作の感想・水彩の使い心地を記入	60分
④【岡野】臨床美術アートプログラム制作「土偶」				4月25日	準備物:4~5cmの石1個	
⑤【岡野】臨床美術アートプログラム制作「石のアナログ画」				4月25日	準備物:こぶし大の石1個	
⑥【北澤】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」①				5月2日	【復習】制作の感想・アクリル絵具の使用について	60分
⑦【北澤】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」②				5月2日	【復習】ミクストメディアを含む制作の感想を記入	60分
⑧【岡野】臨床美術学演習 「つまづき、ルービンの壺、純粹輪郭画、修正輪郭画」				5月9日	【予習】フォルメン、ラリー実習(計画書) 準備物:鉛筆(2B、4B)3本 【復習】濃度を振返る	【予習】90分 【復習】160分
⑨【岡野】臨床美術学演習「白と黒の魔術、右脳的な見方、きみ子方式」				5月9日	【予習】クレーの模写	120分
⑩【北澤】臨床美術教材研究「共同制作」				5月16日		
⑪【岡野・北澤】アートプログラム実践演習「感情のアナログ画ロールプレイング」①				5月23日		
⑫【岡野・北澤】アートプログラム実践演習「感情のアナログ画ロールプレイング」②				5月23日		
⑬【北澤】臨床美術教材研究「アートプログラムにおける造形素材」				5月30日	【復習】造形素材の探索	120分
使用テキスト:使用テキスト:『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):「臨床美術」の単位を取得し、臨床美術士4級取得について担当教員と相談の上、受講することができます。4月13日の授業ガイダンスで授業の内容と日程について説明します。受講者は欠席しないようにしてください。本科目は2コマ続けて行う授業になります。また開講日も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみを記載してあります。)						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 表現アート演習 II			担当教員 氏名: 北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよ アートプログラムを用いた意味生成ケアの現場実践(臨床美術士としての実務経験)にもとづいて、様々な うな授業を行っているか: 状況・状態の方々に、アートに触れることでの多幸感を味わうことができるように視点の提供をする。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
他者とのコミュニケーションの場において、様々なアートプログラムに取り組み楽しむ。 主に色鉛筆やオイルパステルなどの描材を用いたプログラムを体験し、意味生成の表 現を捉えなおしつつ、ケアとしての表現を考え、実践する態度を養う。				・アートプログラム・脳の活性化 ・「つくり、つくりかえ、つくる」(意味生成) ・コミュニケーション ・他者理解 ・存在論的人間観・ナラティブ	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.	
A 知識・理解力	アートプログラムの成り立ちを理解する。				
B 専門的技術	色鉛筆・オイルパステルを中心画材として楽しんで表現する。				
D 問題解決力	意味生成の表現を捉えなおしつつ、ケアとしての表現について考える。				
H コミュニケーション力	他者の表現への理解を深め、メッセージ力を高める。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 70 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: %
特記事項: アクティブラーニングによる学びを重視することから、現場実践のロールプレイングを通して、実践的に学ぶ。『レポート 70%』は、各課題の学びをまとめたファイル(ポートフォリオ)である。『発表 30%』は、各回の授業等における各自の振り返りのコメン トである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各プログラムごとに学びを整理・記録したファイルを作成し⑬の授業にて提出。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業においてコメントする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①【ガイダンス】 学習目標、学習内容、アートプログラムについて			振り返りとポートフォリオ作成	30	
②アートプログラム7演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
③アートプログラム7演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
④アートプログラム8演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑤アートプログラム8演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑥アートプログラム9演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑦アートプログラム9演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑧アートプログラム10演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑨アートプログラム10演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑩アートプログラム11演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑪アートプログラム11演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑫アートプログラム12演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑬アートプログラム12演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑭自己の学びの総括 I 部(発表)			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑮自己の学びの総括 II 部(発表)			振り返りとポートフォリオ作成	30	
使用テキスト: 特に設定しない。			その他参考文献など: 特に設定しない。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 【準備品】スケッチブック、18色の色鉛筆と臨床美術専用オイルパステルを購入する。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: カウンセリング基礎演習				担当教員 氏名: 石黒 真弓	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			心療内科や学校、施設でのカウンセリング経験を基に事例を検討します。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
カウンセリング基礎理論で身に付けた知識をロールプレイングなどで実際に体験します。				対人関係・受容	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 10	
C 論理的思考力	知識を生かし、日常生活で起こりうる場面において活用できるよう道筋をたてて考えます。				
D 問題解決力	クライアントが抱える問題について、適切に関わり問題解決に努めます。				
F チームワーク・リーダーシップ	集団内での行動に着目し、集団内での自身の役割について考えます。				
G 倫理観	自らを律しつつ、人権尊重の倫理観に基づいて他者を理解する。				
H コミュニケーション力	言語および非言語でさまざまな人との人間関係を広めます。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 50 %	発表: 20 %	実技試験:	% その他: 30 %
特記事項: 事例を基にカウンセリングをどう進めるか、様々な理論を基にグループで検討し理解を深めます。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回目の授業時に説明します					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを書いて返却します。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な時間(分)
①自己理解、他者理解				「理解」とはどのようなことか整理する	60分
②カウンセリングテクニック1				2つの技法を使い分ける	60分
③カウンセリングテクニック2				4つの技法を使い分ける	60分
④カウンセリングテクニック3				6つの技法を使い分ける	60分
⑤カウンセリングテクニック4				8つの技法を使い分ける	60分
⑥演習1				各技法を説明できるようになる	60分
⑦演習2				適切な技法を選び理由を考える	60分
⑧個人カウンセリングと集団カウンセリング				集団カウンセリングについて個別とのちがいを整理	60分
⑨グループエンカウンター1				エンカウンターの特徴をまとめる	60分
⑩グループエンカウンター2				エンカウンターの目的をまとめる	60分
⑪グループエンカウンター3				エンカウンターの効果をまとめる	60分
⑫集団カウンセリング実施計画				計画をたて準備する	60分
⑬集団カウンセリング計画発表1				計画通りだったかふり返る	60分
⑭集団カウンセリング計画発表2				計画通りだったかふり返る	60分
⑮まとめ				カウンセリングのながれを整理する	60分
使用テキスト:				その他参考文献など: カウンセリングテクニック入門	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目の受講には、1年後期の「カウンセリング基礎理論」の単位修得が必要です。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 心理アセスメント基礎実習				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	福祉心理士			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 心理臨床の実務経験に基づき、心理アセスメントの基礎技術を実践的に修得するための実習を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
福祉施設、医療、児童相談、教育相談等の現場において、利用者を客観的かつ根拠をもって理解するために、心理アセスメントは必須の技術である。心理アセスメントを実施するための基礎的技術および報告書を理解するための基礎的知識について実践的に学ぶ。					知能検査、脳機能検査、性格検査、テスト・バッテリー、アセスメント				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		5, 6, 9.				
A 知識・理解力			心理アセスメントの基礎知識を身に付けている。						
B 専門的技術			心理アセスメントの基礎的技術を習得している。						
E 自己管理能力			自己を客観的に理解し、自己管理に役立てられる。						
G 倫理観			心理アセスメントにおける倫理を守りながら、利用者を理解していくことができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: レポート(40×2)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート提出は第8回および第15回に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①心理アセスメント実習の進め方、注意事項、報告書の作成方法等についてのガイダンス				心理アセスメントにおける倫理についてまとめる	30				
②認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成1				ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査、長谷川式簡易知能評価スケールを、履修学生に割り当て、全ての検査について実践し、報告書を作成する。	実習と振り返り(ビネー式)	30			
③認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成2					実習と振り返り(ビネー式)	30			
④認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成3					実習と振り返り(ウェクスラー式)	30			
⑤認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成4					実習と振り返り(ウェクスラー式)	30			
⑥認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成5					実習と振り返り(HDS-R)	30			
⑦認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成6					実習と振り返り(HDS-R)	30			
⑧認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成7					知能検査の報告書作成	180			
⑨人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成1				性格検査の中から3つ選び、検査バッテリーを構成し、実践し、報告書にまとめる。	実習と振り返り(性格検査①)	30			
⑩人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成2					実習と振り返り(性格検査①)	30			
⑪人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成3					実習と振り返り(性格検査②)	30			
⑫人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成4					実習と振り返り(性格検査②)	30			
⑬人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成5					実習と振り返り(性格検査③)	30			
⑭人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成6					実習と振り返り(性格検査③)	30			
⑮人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成7					性格検査の報告書作成	240			
使用テキスト: テキスト不要。必要な資料・検査用具等は授業時に配布または貸し出します。				その他参考文献など: 岡堂哲雄(編)臨床心理学全書第2巻 臨床心理査定学[誠心書房]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各種心理検査を行い、人を総合的にアセスメントするための技術の基礎を学ぶ実践的科目です。福祉や心理における倫理規定は常に意識し、必ず守るようにしてください。実践的なアクティブラーニングで学びます。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 発達心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	福祉心理士
実務経験を用いてどのよう心理臨床の実務経験に基づき、人間の生涯発達について解説するとともに、発達と関連する障害や疾患にうな授業を行っているか: ついても理解できるように授業構成を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
人は誕生してから亡くなる時まで、遺伝的要因と環境的要因からの相互作用を受けながら、常に変化を続ける。すなわち生涯にわたる発達の縦軸と関連付けること無しには、「個人」の理解はありえない。生涯発達の基礎的知識を学ぶ。					遺伝と環境、生涯発達、発達段階、発達と支援、認知症	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.	
A 知識・理解力	発達心理学の基礎知識を身に付けている。					
C 論理的思考力	人間の行動や心理を発達の観点で意味づけながら、科学的に理解できる。					
E 自己管理能力	生涯発達の縦軸に自らを位置づけて、自らを理解し、律することができる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: レポート(40%)、期末試験(40%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート提出は第8回、期末試験は別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 遺伝と環境および発達の基礎概念				遺伝と環境について調べる	30	
② 発達段階の理論				主な発達理論を調べる	60	
③ 乳児期の心理的発達				乳児期の特徴について調べる	60	
④ 幼児前期の心理的発達				幼児前期の特徴について調べる	60	
⑤ 幼児後期の心理的発達				幼児後期の特徴について調べる	60	
⑥ 児童期の心理的発達				児童期の特徴について調べる	60	
⑦ 青年期の心理的発達および発達と関連する障害				青年期の特徴について調べる	60	
⑧ 成人期の心理的発達				テキストⅠ・Ⅱ章	60	
⑨ 高齢期: 家族との関係				テキストⅢ章	60	
⑩ 高齢期: 仕事・社会との関係				テキストⅣ章	60	
⑪ 高齢期の心理的問題				テキストⅤ章	60	
⑫ サクセスフル・エイジング				テキストⅤ章	60	
⑬ 認知症の理解と支援Ⅰ: アセスメントの技法				テキストⅥ章	60	
⑭ 認知症の理解と支援Ⅱ: BPSDへの対応				テキストⅥ章	60	
⑮ まとめ				総復習をしておく	120	
使用テキスト: シリーズ生涯発達心理学⑤ エピソードでつかむ 老年心理学、大川一郎・土田宣明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子(編著)、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-05895-2				その他参考文献など: 塚野州一(編)みるよむ生涯発達心理学―バリアフリー時代の課題と援助―[北大路書房]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 乳幼児から高齢者まで、「個人」を理解しようとするときに発達の観点から関連付けることは、きわめて重要です。なぜなら人は常に成長・変化し続けるものだからです。必要資料は適宜、追加配布しますが、図書館等でしっかりと予習しておいてください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 人格心理学			担当教員 氏名: 石黒 真弓		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		心療内科や学校、企業でのカウンセリング経験を基に人格について事例を紹介します。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
他者を支援するためには、相手が何を感じ、どう考え、どんな行動傾向があるのか、つまり、相手の人格(パーソナリティ)を理解する必要がある。同様に援助者としての自分自身について理解を深めることも重要である。本授業では、他者と自分自身の人格を理解するための枠組み(理論)を習得することが目的である。					人格(パーソナリティ)、自己理解、他者理解、気分・感情、認知、行動
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 5. 6. 7. 9.	
A 知識・理解力	人格心理学の概要と様々な人格理論を理解し、人の心理に関する理解を深める				
C 論理的思考力	人格理解に関する枠組みを習得し、他者および自分自身の理解に活かす				
E 自己管理能力	人格について学ぶことで自己覚知の実践力を高める。				
G 倫理観	人間について学ぶことで倫理観を高める。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 人格心理学の内容を理解した上で、グループに分かれ自分のテーマを設定しプレゼンします。					
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回目の授業時に説明します					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを書いて返却します。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①人格(パーソナリティ)とは?			【復習】①の復習	60	
②人格心理学の代表的な理論			【復習】②の復習	60	
③人格(パーソナリティ)の測定方法			【復習】③の復習	60	
④人格(パーソナリティ)の発達の変化 I			【復習】④の復習	60	
⑤人格(パーソナリティ)の発達の変化 II			【復習】⑤の復習	60	
⑥人格(パーソナリティ)の生物学と脳科学 I			【復習】⑥の復習	60	
⑦人格(パーソナリティ)の生物学と脳科学 II			【復習】⑦の復習	60	
⑧まとめ			【復習】①～⑦の復習	120	
⑨感情と人格(パーソナリティ)			【復習】⑨の復習	60	
⑩認知と人格(パーソナリティ)			【復習】⑩の復習	60	
⑪思考と人格(パーソナリティ)			【復習】⑪の復習	60	
⑫社会文化と人格(パーソナリティ)			【復習】⑫の復習	60	
⑬他者理解について			【復習】⑬の復習	60	
⑭自己理解について			【復習】⑭の復習	60	
⑮まとめ			【復習】⑨～⑭の復習	120	
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布する			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業をしっかりと聞いてください。また、わからないことがあればどんどん質問してください。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 社会心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
私たちは常に人との関わりの中で生活を送っている。言い換えれば、私たちの行動や心理は常に社会からの影響を受けている。個人と社会の影響過程について、身の回りの日常的問題意識の観点から理解する。					対人関係、リスク管理、意思決定、リーダーシップ
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.	
A 知識・理解力		社会心理学の基礎知識を身に付けている。			
C 論理的思考力		社会の中で生きる人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解できる。			
H コミュニケーション力		情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身に付けている。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	50 %
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方型授業を行います。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学習到達度を毎回フィードバックする。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な時間(分)
①授業概要説明:「社会心理学とは」				社会心理学と他の領域との関係についてまとめる	30
②自己を知るⅠ:社会的自己				クエス1:社会的自己	180
③自己を知るⅡ:認知的不協和理論				クエス2:認知的不協和理論	180
④行為の原因を知るⅠ:原因帰属理論				クエス3:原因帰属理論	180
⑤行為の原因を知るⅡ:態度				クエス4:態度	180
⑥「私たち」と「あの人たち」:偏見と差別				クエス5:偏見と差別	180
⑦個人と集団の利益:社会的ジレンマ				クエス6:社会的ジレンマ	180
⑧コミュニケーションと自己呈示				クエス7:コミュニケーションと自己呈示	180
⑨異文化コミュニケーション				クエス8:異文化コミュニケーション	180
⑩他者への行為Ⅰ:怒りと攻撃				クエス9:怒りと攻撃	180
⑪他者への行為Ⅱ:援助行動				クエス10:援助行動	180
⑫集団から個人への影響:ソーシャルインパクトと権威への服従				クエス11:集団からの影響	180
⑬個人から集団への影響:リーダーシップ				クエス12:リーダーシップ	180
⑭ヒューマンエラーとリスクマネジメント				クエス13:ヒューマンエラー	180
⑮社会的公正と集合行動				ポストレベルクエス	180
使用テキスト:指定テキストはありません。必要な資料は図書館等で自分で入手してください。				その他参考文献など:ロジャーR.ホック(編)梶川達也(監訳)心理学を変えた40の研究[ピアソン・エデュケーション];ローレンス・スレイター(著)岩坂彰(訳)心は実験できるか[紀伊国屋書店]	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):クエス型授業によるアクティブラーニングで学びます。心理学理論は、自分の日常生活と結びつけて理解することで生きた知識となります。ぜひ自発的に学習を行ってください。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 心理学研究 I			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
自らの問題意識に基づいて、先行研究の知見を調べ、人間の行動や心理に関する研究仮説を立て、研究計画を立案し、プレゼンテーションを行います。この実践を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける「私」をつくります。					行動・心理、研究仮説、実験・調査、考察、論文作成、プレゼンテーション・パブリケーション				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短編マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 9. 10				
A 知識・理解力			心理学研究の基礎知識を身に付けている。						
B 専門的技術			人に関わる問題について、心理学的に研究する技術を習得している。						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。						
D 問題解決力			人間の行動や心理に関する問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。						
H コミュニケーション力			自ら学び、考え、得た情報を的確にまとめ、解りやすく人に説明できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 研究への取り組み態度(20%)、研究計画の作成(50%)、研究計画のプレゼンテーション(30%)に基づいて成績評価を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは第15回に行う。また研究発表については別途行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 研究の進捗に応じて、適宜フィードバックする。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①心理学研究の進め方、研究倫理、注意事項等についてのガイダンス。					研究倫理についてまとめる	30			
②心理学研究の基本: 実験法					実験法についてまとめる	60			
③心理学研究の基本: 調査法					調査法についてまとめる	60			
④心理学研究の基本: サンプルング					サンプルング法についてまとめる	60			
⑤心理学研究の基本: データ分析					データ分析についてまとめる	60			
⑥心理学研究の基本: 図表の作り方とパワーポイント資料の作り方					図表・パワーポイント資料作成の注意点についてまとめる	60			
⑦研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案					特に指定しないが、研究などで、自らテーマ設定をし、資料収集し、データ収集し、考察し、研究計画を作成する	120			
⑧研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑨研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑩研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑪研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑫研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑬研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑭研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案						120			
⑮研究計画書の提出およびプレゼンテーション						240			
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は、自ら収集してください。						その他参考文献など: 「心理学研究」、「社会心理学研究」、「Journal of Personality and Social Psychology」等の学術雑誌			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理学研究法の基本を学びつつ、自ら問題を発見し、研究計画を立案するアクティブラーニングで学びます。後期の「心理学研究Ⅱ」を履修したい人は、必ず履修してください。									